

等号 (=)、不等号 (>、<)、条件 (かつ、または) についての解説

小学生は、等号 (=)、不等号 (>、<)、条件 (かつ、または) が苦手なようです。覚えることは5つだけ、「=、>、<、かつ、または」です。これだけなので覚えてしまいましょう。

<注意事項>

(1) 読み方

「音センサー>10」は「音センサー大なり 10」と読みますが、小学生にはわかりにくい言葉のようです。「音センサーは 10 より大きい」と読んでしまいましょう。

(2) 数字は必ず右に書くこと。

「音センサー>10」も「10<音センサー」も意味は同じですし、プログラムも動きます。しかし、「10<音センサー」と書くと間違いのもとです。必ず「音センサー>10」と書きましょう。

また、変数を使う場合、変数を左に書いてしまう子がいますが、変数も数字ですので右に書きます。

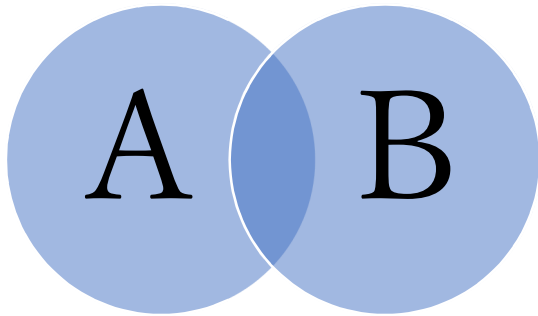
(3) 「または」について

「または」は「どちらかの条件をみたす場合」です。「どちらかの条件『のみ』をみたす場合」と定義するのは誤りです。

下のベン図に示したように「AまたはB」は、色のついている領域すべてです。「A のみの場合」「B のみの場合」「A かつ B の場合」のいずれも含まれます。したがって、「どちらかの条件『のみ』をみたす場合」と言ってしまうと「A かつ B の場合」は排除されますので誤りとなります。

A または B → 色のついている領域すべて

A かつ B → 色の濃くなっている領域



このようなことを小学生に言っても混乱するばかりですので、言わなくていいですが、少なくとも教師としては「どちらか片方『だけ』」などと言わないようにしましょう。